

## 巻頭言

2019年12月に発生した新型コロナウイルスの流行は瞬く間に世界中に拡大し、既に3年が経ちました。国内ではようやく感染対策の緩和に向けて動き始めましたが、このアニュアルレポートの対象年2022年はまだ先行き不安定な状況であったこと、皆さんも記憶に新しいと思います。どの学会も春はオンラインで開催され、秋になってちらほらと現地開催にて実施されるようになりました。幸い、博士公聴会・修士論文発表会は完全に対面で実施することができ、今や講義や実験に関しては対面型で支障無く実施され、海外での国際学会への参加・発表の件数も次第に増えてまいりました。この3年間、大学らしい賑やかさを感じることもなく、研究室でのイベントも制限がかかっておりましたが、この先、再び活気のある世界が訪れることを祈念したいと思います。

令和4年3月に高分子集合体科学研究室教授の佐藤尚弘先生が定年退職されました。佐藤先生は大阪大学名誉教授の称号を授与され、高分子学会高分子科学功績賞を受賞されました。4月からは寺尾憲先生が高分子溶液学研究室教授に、川口辰也先生が高分子構造科学研究室講師に昇任されました。原田明名誉教授におかれましては令和4年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。

ウクライナ危機や円安などの影響を受け、電気代が高騰しており、大学運営や自由闊達な研究環境を脅かす大事態になっています。また、定員充足率90%未満の場合、学生経費のうち未充足分に相当する額を研究科・各専攻の運営費交付金から国庫返納することになっていることから、博士後期課程の学生数減少は喫緊の課題です。一昨年からスタートした本学博士後期課程学生への助成制度を活用して将来の科学の発展を担う博士後期課程学生が多くなることを切に願いたいと思います。

本冊子は令和4年の高分子科学専攻所属研究室の主な研究活動内容と業績、本専攻修了者の論文題目と進路をまとめたものです。今後とも高分子科学専攻への相変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

(令和4年度高分子科学専攻長 山口浩靖)



(令和5年3月に当専攻の博士前期課程を修了した学生諸氏)